

和地ひとみレポート No.261

東大和市議会平成29年第4回定例会 一般質問 “日本一子育てしやすいまちづくりについて” 保育園の待機児童の次は…様々な方策で学童の充実を



■第4回市議会定例会 一般質問

…平成29年第4回市議会定例会で、私は以下のテーマについて一般質問で取り上げました。

■日本一子育てしやすいまちづくりについて

- ① 学童クラブについて
⇒待機児童の現状と課題、今後の対応について。
⇒延長保育について。
→把握しているニーズについて。
→現状の取組みと課題について。
→今後の取組みについて。
⇒学童クラブの入所選考についての現状と課題について。
⇒その他、市民ニーズや現場からの声などにより、市が把握している学童保育の課題について。
- ② 児童の見守りシステムの導入についての現状及び課題と、今後の対応について

■広報ならびにブランドプロモーションについて

- ① 市報について。
⇒現状と課題について。
⇒今後の拡充について
- ② ブランド・プロモーションにおける広報の取組みについて。
⇒ホームページの活用について。
⇒SNSの活用について。
⇒その他の広報の取組みについて

…東大和市は「日本一子育てしやすいまち」を目指して、約3年、様々な施策を進めてきました。その結果、昨年は「日経 DUAL 共働き子育てしやすい街グランプリ」で第4位、そして、今年は同点の他自治体があるものの第3位と順位を1つあげることができました。この結果は、限られた予算の中で、東大和市が様々な努力や工夫をしてきた結果だと大いに評価したいと思います。“子育て支援”に関する問題として、昨今、一番話題に上っているのは“保育園の待機児童問題”ですが、「子育てしやすいまちづくり」に関連する事業は、多岐に渡ります。東大和市の保育園の待機児童数は一桁代を維持しており、東大和市が様々な対策を講じてきたことが有効だったと言えます。そこで、今回は学齢以後の子育て支援について、すなわち学童保育の課題と子どもの見守りについて確認したく、このテーマを取り上げました。前述の「日経 DUAL 共働き子育てしやすい街グランプリ」の評価項目にも「学童保育の充実」が入っています。「充実」という場合、待機児童の数という“量”が目目されがち。しかし、“充実”という点では「子育てしやすい」という、親目線

からのものだけでなく、子どもにとってどうか…という“質”についての目線も必要。この点についても市の考えを確認しました。

■学童保育の待機児童数は3桁の現状

…共働きの家庭などが小学校に入学した子供を放課後預けるのが『学童保育』という制度。東大和市にも11の学童保育クラブがありますが、近年の共働き家庭の増加や安全意識の高まりから、利用を希望する方が増加しています。そこで、最初に現在の学童保育の待機児童の状況や今後の見通しについて確認。その答弁は「待機児童の現状は、11月1日現在、194名となっている。しかしながら、待機となった場合でも、放課後を安心・安全に過ごすことができるよう、児童館及び学校施設を活用したランドセル来館事業で児童の受け入れを実施している。課題は、活動場所の確保及び事業の実施に必要な人員の確保だ。今後の対応については、ランドセル来館事業を引き続き実施していくとともに、立野みどり保育園の移転後の建物を活用した民設民営の学童保育所の開設により、待機児童の解消を図っていく。また、見直しを行った『子ども・子育て支援事業計画』のなかでは、学童保育所の利用希望者については、平成29年度の実績値は1,000人、平成30年度の推計値は1,073人、平成31年度の推計値は1,088人と増えていく見込みを示している。それに対する定員数については、平成30年度の推計値が823人となっていることから、推計値1,073人という需要数からみると待機児童数は250人程度と見込んでいる。」とのことでした。

…答弁にもあったように、東大和市では、学童保育の待機児童については、ランドセル来館事業に全員登録となっています。しかし、児童館やランドセル来館と学童保育所では、おやつの有無、預かり時間の違いなどがあり、完全に学童保育を補完する制度とはいえません。また、学童は有料、ランドセル来館は無料ということもあります。このような違いの中、利用者は学童保育とランドセル来館の選択はできない状況です。これについての答弁は「ランドセル来館事業は、児童館や小学校の教室を活用して行っている。学童保育所のように特に専用区画はなく、一般来館で児童館に遊びにきた他の児童と一緒に過ごす。市としては、基本的には“学童保育所ありき”と考えているが、施設に限りがあるため、入所の順番が回ってくるまでの間の補完的な事業として、ランドセル来館事業による受け入れを行なっている。」とのことでした。

(裏面に続く)

■延長保育の課題は

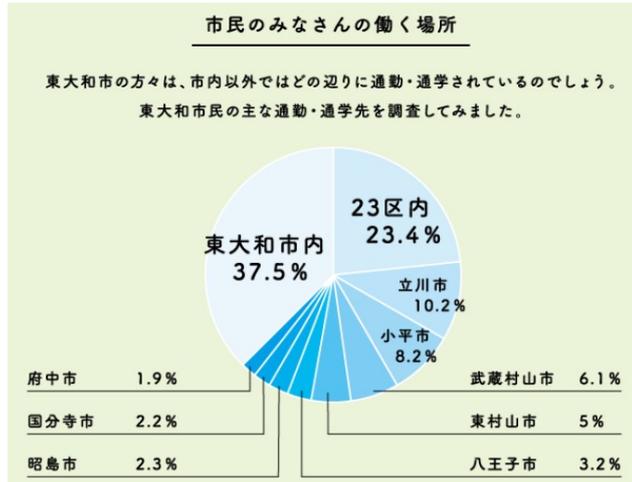
…東大和市の学童保育の延長保育については、保護者からの要望に応えるかたちで、平成28年度には午後7時までの延長保育を開始。平成26年度に実施した事前意向調査では約2割の保護者が利用したいとのことで、平成28年度の4月1日付での月額利用登録者（突発的に延長保育を利用する1日保育ではなく、常に延長保育を利用する方）は220人。しかし、平成29年度の4月1日付での月額利用登録者数は、111人となったとのことです。また、一方で、市では未だに延長保育のニーズがあることは把握しているとのこと。東大和市内には、20時まで延長保育を実施している保育園がありますが、そこを卒園した子どもが学童に入れたとしても、お迎え時間を1時間早めなければならないという、違った意味での“小1の壁”が出ていることも考えられます。それに対する答弁は「他市において、19時以降まで延長保育を実施しているところは、八王子市（19:30）、西東京市の一部（19:30）、福生市の一部（20:00）、狛江市の一部（20:00）となっている。仮に東大和市で20時まで延長保育を実施することとなった場合、長時間の保育となることから、調理室の設備がある保育所とは異なり、補食あるいは夕食の提供に関しての対応等が課題となる。また、従事する職員の確保も課題となる。」とのことでした。

…子育て中の社員に対し、短時間勤務の制度がある企業の多くは、その対象を「お子さんが小学校に入学するまで」としています。市には、延長保育が19時までだから勤務形態を変えていることがないか等の詳細の把握もしてほしいと要望しました。

■入所選考に課題はないか？

…東大和市は“都心のベッドタウン”と自らの街の特徴をうたっています。市の調査でも下記のとおり、市内、隣接している市で勤務する人と、都心や少し離れ

【↓市が作成し、不動産サイトに掲載している市の紹介より】



た都市で勤務している人とはおよそ半々という状況です。しかし、現在の学童保育所の入所選考では通勤時間は厳密には考慮されておらず「市内」「市外」ということのみです。勤務場所が隣接する市である人と、都心の人では同じ「市外」とされます。その場合、都心

にお勤めの方は、お迎え時間の19時に間に合うように短時間勤務にして調整していることも考えられます。

…市は入所選考での課題はないとの認識だったので、再度、この点について確認したところ「おっしゃる通り、東村山市に勤務で18:00までの方が基準指数8.5+市外勤務0.5で9となり、都心勤務の17:30の方は、基準指数8+市外勤務0.5で8.5となり、お迎えの時間に間に合わせるために勤務時間の変更をすることで指数に差がでる。通勤時間については、通勤手段（車、バス、電車、自転車、徒歩等）や駅から通勤場所までのアクセスなどによっても変わってくるため、一概に距離の長短だけでも計れないことから、勤務地の市内、市外のみを考慮している。通勤時間の基準指数への反映等については、今後、調査研究してまいりたい。」との答弁でした。今は、様々なツールで通勤時間の概算を出すことができるはず。“都心のベッドタウン”として子育て世代の人の転入を進めていくのなら、このようなことも重要になると伝えました。

■保育の充実や見守りの体制も

…東大和市の学童保育所の環境はバラバラ。外遊びができるスペースの大小、また、雨の日にはビデオを観て過ごすなどといっただけで、歌を歌ったりするような楽器（電子ピアノなど）が有るところと無いところなども違います。このような保育の充実についての環境も整えるべき。また、昨今は、塾などが経営する学童保育所もありますが、現在、東大和市内には、まだありません。他市ではこのような民間学童保育所を誘致して、補助金を出すなどしているところも。民間の学童保育所は塾や習い事も兼ねているため、育成料は高額になりますが、様々な習い事の月謝や、遅くまでの延長保育があることなどを考えた場合、民間の学童保育所を選択する保護者もいます。民間学童の誘致については「他市で、補助あるいは業務委託による民間事業者の学童保育事業への参入を進めていることは承知している。当市でも、来年4月から、立野みどり保育園移転後の建物を活用した、社会福祉法人による民間学童保育所を開所し、待機児童対策を進める。この新たな民間学童保育所の運営等をみながら、今後のさらなる民間活力を活用した学童保育事業について、調査研究をしてまいりたい。」との答弁でした。

…民間学童保育を選択する理由の一つが、学校から学童、学童から塾といった子供の移動がないこととのこと。昨今、様々な事件が起こっていることもあり、子どもの安全、見守りの必要性は高まっています。小平市では既にカードリーダーシステムによる子供の見守りを導入しています。「日本一子育てしやすいまち」を目指す本市としては、是非、導入すべきではないかとの私の問いには「教育委員会と連携し、導入に向けて、具体的に進めてまいりたい。」との答弁を頂きました。…今後、学齢以後への子育て支援の充実が進めば、東大和市はさらに選ばれる街になるはず。今回の答弁では「そこで過ごすお子様にとって…」といった、“質”に対する市の前向きな姿勢も感じられました。今後様々な取組みを研究し、充実すべきと要望しました。



市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。
「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>
✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102